

始良市蒲生複合新庁舎 建設基本設計図書【概要版】



パブリックコメント

令和3年10月15日（金）から11月14日（日）まで

始良市蒲生複合新庁舎 建設基本設計図書【概要版】

1. 設計の基本方針

新庁舎は、頻発する自然災害への備えから、地域防災拠点として行政機能を維持できる災害に強い庁舎として計画します。また、様々な地域活動や交流の拠点として周辺の公共施設と複合化し、蒲生の街並みと調和する市民に親しまれる庁舎として計画します。

基本設計では、始良市複合新庁舎建設基本構想・基本計画（平成30年8月策定）に掲げる『複合新庁舎建設の基本的な考え方』及び始良市蒲生総合支所庁舎建設基本計画（令和2年8月）の『基本方針』を具現化するものとします。なお、この基本設計図書（案）には検討段階の内容も含まれており、今後変更される場合がありますので、予めご了承ください。

① 地域防災拠点としての施設

- 災害応急活動の拠点及び一時避難場所として、防災資機材や食料、飲料水、生活支援物資を備蓄する倉庫を計画します。
- 避難時受け入れ施設として、災害時の市民の安全性をサポートする施設とします。
- 路地空間を防災広場として利用できる計画とします。
- 非常時の発電設備等は屋上に配置し、万一の浸水時に機能確保を図ります。
- 大地震後も地域防災拠点としての機能を維持できる十分な耐震性能を有する安全性の高い施設とします。

② 市民に親しまれ、まちづくりの拠点となる施設

- 建物の高さを低く抑えることで歴史的な街並みと調和する庁舎とします。
- 武家屋敷通りの延長線上に路地空間を設け、街と施設が一体となった市民に親しまれる計画とします。
- 八幡馬場通りと西馬場通りの武家門を路地空間で結び観光資源に連続性を持たせ、観光まちづくりの拠点としての機能を備えます。
- 多目的室に付属してキッチン設備を設け、食を通じた様々な交流や活動を支援します。
- 多目的ホール、多目的室、エントランスホールは、路地空間を介して街と一体となって利用可能な計画とします。

③ ユニバーサルデザインを取り入れた、ひとにやさしい施設

- 誰もが使いやすいシンプルな配置・動線計画とします。
- 建物を中心に歩行者ゾーンと車両ゾーンを明確に分け、安全な動線計画とします。
- バリアフリースイレや授乳室を設け、すべての市民が利用しやすい計画とします。

④ 環境にやさしく、経済的な施設

- 自然エネルギーを活用し、環境負荷の低減に配慮した計画とします。
- 軒を深くすることで直射日光による熱負荷を軽減します。
- 建物を軽量化することで基礎にかかる費用を削減し、軽くて強い庁舎とします。

⑤ 市民サービスの向上を実現する施設

- 行政窓口を集約することで利用者の動線を短縮する計画とします。
- 駐車場及び車寄せを行政窓口に近接させ、スムーズな利用者動線とします。

⑥ 機能性・効率性の高い施設

- 明快な管理区分で休日や夜間等の施設使用に対応可能な計画とします。
- 施設の複合化により、共用部を施設中央付近に集約し、共有することでスペースと設備を最大限利用する計画とします。

2. 配置計画

新庁舎は現蒲生庁舎を解体し、同敷地に建て替えます。

新庁舎は蒲生の景観に調和する計画とするために、北面・東面道路に沿って歩行者専用の路地空間『トオリニワ』を整備し、トオリニワに沿ってL形に施設を配置します。

駐車場は南側・西側に配置することで歩車道分離を明確にし、駐車場による景観阻害に配慮しています。L形に各機能を配置し、建物への出入り口を複数設けることで道路や駐車場から目的の施設にスムーズにアクセスすることができます。



■ 動線計画

- ① 庁舎玄関：車両出入り口近くに車寄せや身障者用駐車場を設け、庁舎を利用する人がスムーズかつ安全に利用できる動線を確保します。
- ② 中央玄関：施設中央にエントランスホールを設け、各施設にスムーズにアクセスすることが可能です。蒲生の歴史や文化などを紹介する展示ホールとしても機能します。
- ③ 駐車場：東側道路に車両出入り口を設け、敷地南・西側に駐車場を配置しました。車路幅を通常より1.5倍程度広い9mとし、高齢者でも駐車しやすい安全な駐車区画とします。
- ④ 身障者等用駐車場：庁舎玄関前に屋根を付けて配置し、安全に利用できる計画とします。

- ⑤ 駐輪場：歩行者専用エリアに分散して配置します。景観に配慮し、建物外観イメージに合わせた駐輪場とします。

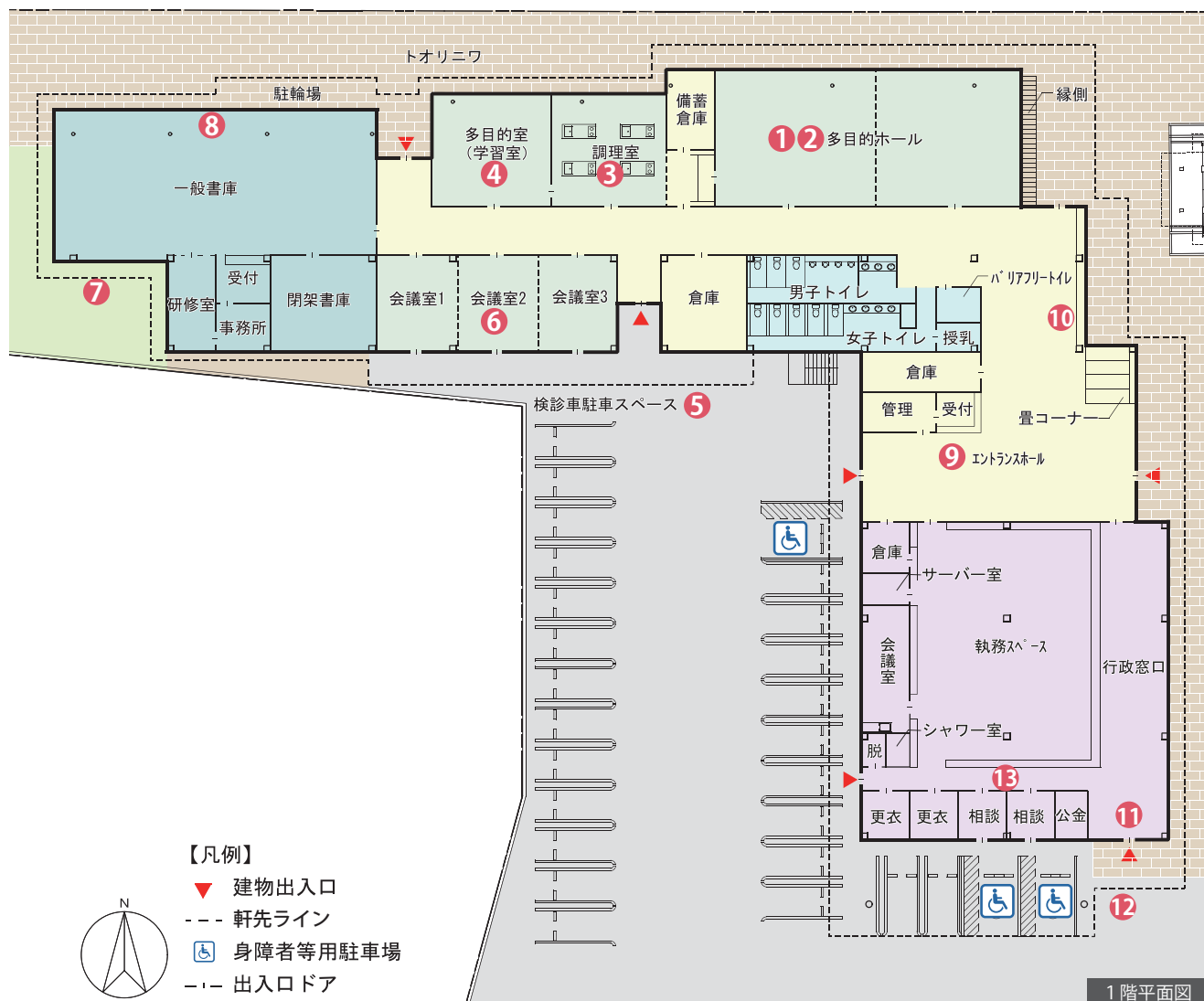
■ オープンスペース計画

- ⑥ トオリニワ：蒲生の武家門通りの魅力を新庁舎の敷地内に取り込みます。歩道と一体的に整備し、作り出された路地空間を中心としたコミュニケーションを誘発。トオリニワはイベントやまち歩きの休憩所、縁側空間でのコミュニケーションなど様々な利用を想定しています。

敷地周辺の利用

- ⑦ 消防団施設は別棟で計画し、消防車の機動性や利用者の安全性に配慮した計画とします。

3. 平面計画



■ 多目的ホール

- ① イベントや集会など様々な用途に対応できる多目的ホールとします。
- ② ステージは可動式のものを採用し、交流会など様々なイベントに対応可能な計画とします。

■ 多目的室

- ③ 調理室は災害時に炊き出しなどにも利用できる計画とします。
- ④ 学習室としても利用可能な計画とします。

■ 会議室

- ⑤ 会議室は会議のほか、検診時の待合室などの利用を想定します。検診車駐車場からアクセスしやすい位置に配置します。
- ⑥ 可動間仕切りで一体的な利用が可能です。

■ 図書館

- ⑦ トオリニワと緑豊かな庭に面した静かな読書空間を計画します。
- ⑧ 安定した北側採光を確保し、図書の劣化にも配慮した配置計画とします。

■ エントランスホール

- ⑨ 蒲生の歴史や文化を紹介できる展示空間として活用する計画とします。
- ⑩ トオリニワ越しに御飯屋門が望める蒲生の名所として整備された空間とします。

■ 庁舎機能

- ⑪ 市民がわかりやすく、アクセスしやすい南側に配置し、開かれた行政窓口を目指します。
- ⑫ 屋根付きの身障者等用駐車場からアクセスしやすい動線計画とします。
- ⑬ 相談室を設置し、市民の要望に応じたきめ細かなサービスを実現します。

4. 立面計画



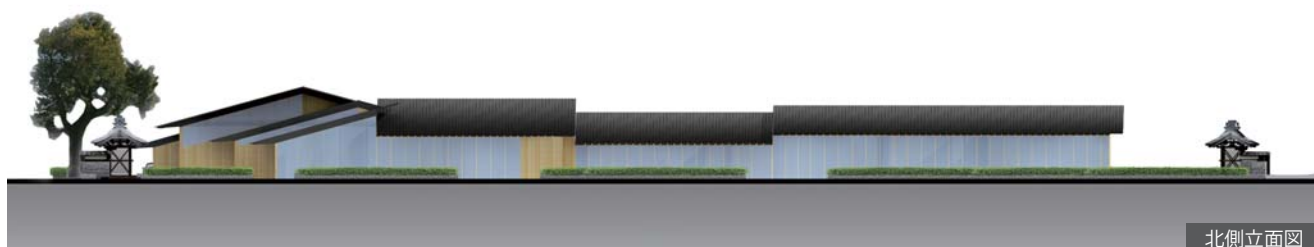
八幡通りからの外観イメージ

立面計画の特徴

建物を平屋建てに抑え、外壁と屋根に凹凸を設けることで、武家屋敷群に調和するサイズ感となり、周辺の街並みと調和する外観デザインとします。またトオリニワによる路地空間が街と施設の境界をなくし、緩やかに繋がる、市民に親しまれる外部空間を創出します。



東側立面図



北側立面図

街並みに馴染む素材選定

蒲生の武家屋敷通りを構成する、石塀、植栽、石畳、勾配屋根などを外装・内装デザインに取り入れ、和風モダンなデザインで新庁舎を計画します。



武家屋敷通りのイメージ

5. ユニバーサルデザイン・サイン計画

すべての人が利用しやすく、わかりやすい庁舎とします。

- ① アクセスしやすい構内通路
- ② 車いす利用者、つえ利用者などの安全対策
- ③ 視覚障がい者の安全対策
- ④ 聴覚障がい者の安全対策
- ⑤ 誰もが利用しやすく、わかりやすい案内



段差のない建具



バリアフリートイレ



大きめのサイン

6. 構造計画

大地震後も災害対策の指揮・情報伝達等の防災拠点施設としての機能を維持し、業務継続できる計画とします。

構造概要

構造形式	耐震構造
規 模	地上1階
構造種別	鉄骨造（主構造）
架構形式	ラーメン構造
耐震性能	構造体・I類、建築非構造部材・A類、建築設備・甲類（庁舎）